

## 4. BTC研修修了者からのメッセージ

このコーナーは、BTCが行っている育成調教技術者養成事業の研修を終え、社会へ巣立っていった修了生が生産・育成界の現実を知りつつ、「強い馬づくり」への夢と期待を述べることを目的に解説しています。次世代を担う若者へ皆様から飛躍のためのエールをお願いいたします。

## プロ意識の獲得を目指して

田口トレーニングファーム勤務 **星川 洋平**

第17期生(平成13年3月修了)

近頃、BTCで管理している調教場の利用者が増えているという事を僕は聞いた事があります。これはBTCの研修を受けていた僕にとっては非常に嬉しい事だと思います。BTCの利用者が増えたという事は育成への需要・関心が高まっているという事だと思うし、そんな場所を使用して馬との関わりを学べたという事は、少なくとも馬の仕事をするしか能が無い僕にとっては誇りに思える事です。

BTCでの研修時代に僕は正直あまり積極的に学ぼうとはしていなかったし、ただ教官の言う事をあまり深く考えなかったのは、今になってすごく悔やまれる事です。馬の世界の仕事の奥深さは研修が終わって育成牧場に入ってから初めて知りました。いかに研修時代に適当にやってきてしまったんだという事をいやと言うほど味わいました。研修時代には手入れは馬を綺麗にする位にしか考えていなかったが、育成牧場ではそうはいかない。やはりオーナーあつての牧場だし、少しでも多くの馬を預けてもらう為には成績を上げるのはもちろんの事だが、まず馬の良し悪し以前に、他の牧場よりも少しでも綺麗に見せてオーナーに喜んでもらい、この牧場に預けて良かったと言ってもらえる様になりたいと考えるようになりました。それから施設についても、BTCは日本有数の施設の整っている育成施設で、僕にとっては初めての育成場だったので、どれだけすごい施設かというのはあまり分からなかったのは事実です。雪が降ったり地面の凍結している冬の間は直線1000mの馬場、600mのトラック、700mの坂路と屋内の施設を当たり前のように毎日訓練で使っていてもありがたみを感じていませんでした。しかし、今いる牧場は雪のないシーズンは良いのですが、雪のあるシーズンになると調教は満足のいくようなものはな

なかなか出来ません。それはほとんどの育成牧場がそうなのではないかと思います。屋内馬場は作るのにお金が非常にかかるので、できたとしても小さな丸いトラックになってしまいます。でも、人間は周囲にあるもので限りなく良い調教をしようと努力するものです。うちの牧場でもやっぱり悔いの残らない調教を限りある施設で考えながら行っています。

僕は就職してから、研修中は勉強するために良すぎる環境のなかで教えてもらうことが当たり前となって、もったいない一年間を送ってしまったことに気づき後悔していますが、やっぱり自分の基本はBTCの研修で学んだ事だし、研修に入らなかったら今の牧場で適当に仕事するだけだったのかもしれませんが。そのようなわけで、なかなかプロ意識を持って仕事をするのは難しい事かもしれないけど、現状に満足しないで常に上へ上へと目指し、小さな事でも疑問に思っ、答えを探しながら馬を育成調教する仕事で生活していたらと最近はいつも考えています。それを忘れないでいきたいと思います。

また、うちの牧場では平成15年より始まった北海道競馬の外厩制度の外厩に認定され、いよいよ実戦に向けたトレーニングが開始されました。しかし今まで僕は馬をレースに出走させるまでは仕上げたことがなかったので四苦八苦しています。目標のレースへ向けて馬を仕上げるというあたり前のことが実はすごく難しい事だと改めて感じました。しかし、外厩制度で馴致～レースまでの流れを学ぶことが出来れば、必ずその知識は自分の宝になると思っています。早く誰からも一人前のプロと認められる技術を身につけて、牧場に貢献できるようになりたいです。

平成16年11月記



筆者(右から3人目)と休養中のヒシミラクル号